

そんけい すべき ムスリム の みなさま!

ほんじつ の きんよう れいはいの ホトバ では、せかい への じひ として つかわされた あいすべき よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) の しょうがい の なか から、せいじつさ の かがみ を ふりかえて みましょう。

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま!

なによりも まず、よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) は しゅ (スバーナワ タアラー) に みずから を ささげて いました。けんしん と すうはい、ぜんのう の アッラー (スバーナワ タアラー) への せんしん と ふくじゅう にかんして、かれ は けっして おこたる こと が ありません でした。

アッラー (スバーナワ タアラー) の しとは、ひとびと に たいし せいじつ でした。ひとびと が げんせ においても、らいせ においても こうふく に なる ように と、しょうがい に わたって てだすけ を しつづけ ました。この てん について わたしたちの しゅ (スバーナワ タアラー) は、あいすべき よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) に つぎ の ように かたり かけて おられます。「かれら が しんこうしゃ に なるう と しな ため、あなたは なげき の あまり、じぶん で じぶん の み を ほろぼして しまう だろう」。¹

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま!

じひ の よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) は また、りょうしん に たいする せいじつさ を かけ ある こと として います。あるひ、ある わかもの が「アッラー の しと よ、ないて いる りょうしん を ふりはらって でも わたし は あなたの もと へ きました」と いうと、わたしたち の よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) は つぎ の ように こたえ ました。「かれら の もと へ かえり なさい。なかせた の と おなじ ぶん だけ、えがお に させて あげなさい」。²

しんあい なる ムスリム の みなさま!

わたしたち の あいすべき よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) は じぶん の ちかい を やぶる ことなく、やくそく は かならず まもり ました。やくそく に せいじつ であること の たいせつさ について、かれ は ある ハディース のなか で こう かたっています。「しんらい を うらぎる もの は、けっして しんこう を まつとう できない。じぶん の いった こと を まもらない もの は、かんぜん な いみ での とくしん を えられない」。³

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま!

せいじつさ は しんこう に ねざして おり、ムスリム として の とくひつ すべき せいじつ の ひとつ です。いま この とき、こうえい にも あいすべき よげんしゃ (かれのうえにしゅくふくとへいあんあれ) の ウンマ の いちいん である わたしたち が なすべき こと とは、かれ が そうで あった ように せいじつ である こと です。つぎ の アーヤ に ある とおり、「しんらい に おうじ、[ひつじかい が ひつじ を まもる ように]やくそく を まもる もの」⁴として いくる こと こそ、わたしたち に かされた ぎむ なのです。

¹ Shu'ara, 26/3.

² Abu Dawud, Jihad, 31.

³ Ibn Hanbal, III, 134.

⁴ Mu'minun, 23/8.